

保護者・学生のためのより詳しい説明

実際の入試問題を使って、この講座の効果をご説明します

7/10

論述ブースト No.10

グローバルヘルスを論じる —— 感染症・医療格差・国際協力を3軸で整理する

★ 清光学院の講師は、大学教員としてこれまでに皆さんのお子さんと同じ志を持った先輩受験生たちの答案を何十年も採点し合否判定を行ってきた当事者です。グローバルヘルスの小論文で「世界には貧しい国があり医療が行き届いていません」という印象論で終わる答案と、感染症・医療格差・国際協力の3軸で構造的に論証した答案の評価の差を、審査側として繰り返し経験してきました。

1. この講座が有効な入試問題のタイプ

① グローバルヘルス・国際医療の小論文

東京大学・慶應義塾大学医学部・東京科学大学の推薦入試では、「感染症のグローバルな拡大にどう対応すべきか」「医療格差の解消に医師はどう貢献できるか」という小論文が出題される。感染症・医療格差・国際協力の3軸で論証できる受験生は採点者（大学教員）に「グローバルな視点がある」と評価される。

② WHO・SDGsの文脈を使った論述

「SDGs3（すべての人に健康と福祉を）の達成に何が障壁か」という問いは、医学部推薦入試で出題される。WHOやSDGsという国際的な枠組みを論拠として使える受験生は感想論述との差が明確になる。

③ 面接での「国際医療にどう貢献するか」

医学部面接で定番のテーマである。感染症・医療格差・国際協力の3軸で即座に論じられる受験生は試験官（大学教員）に印象を残す。

2. 具体的な大学・学部との対応

大学・学部	出題の傾向	本講座との対応
東京大学・慶應義塾大学 医学部	グローバルヘルスの小論文	3軸の論証枠が印象論との差を生む
東京科学大学	感染症・医療格差の論述問題	国際的な枠組み（WHO・SDGs）が論拠として機能する
名古屋市立大学・横浜市立大学 医学部	地域・国際医療の論述	3軸の構造が採点者（大学教員）に際立つ答案を生む
医学部推薦・総合型選抜（全般）	「国際医療への貢献」型の口頭試問	3軸で即答できる受験生として採点者に印象を残す

3. なぜ差がつくのか・受講後に期待できる変化

グローバルヘルスの小論文を「世界には医療格差があります」という印象論で書く受験生は、採点者が求める「構造的な論証」を示せない。授業の詳細な内容はここでは述べないが、受講後には（1）感染症・医療格差・国際協力の3軸で構造的に論証できる、（2）WHO・SDGsを論拠として使える、（3）面接でグローバルな視点から即座に論じられる、という変化が起きる。

何十年も医学部の小論文・面接を審査してきた清光学院の講師陣は、グローバルヘルス論述で「印象論の答案」と「3軸で構造的に論証した答案」の評価の差を採点者として知っている。